

第 82 回 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会 会議録	
日 時	令和 7 年 3 月 24 日（月）午前 10 時から 12 時
開 催 場 所	横浜市役所 18 階 みなと 4・5
出 席 者	<p>（委員）</p> <p>大迫会長、</p> <p>大森委員、小野田委員、佐藤委員、篠木委員、林委員、桃井委員、森(朋)委員 以上 8 名</p> <p>（横浜市）</p> <p>資源循環局長、政策調整部長、総務部長、</p> <p>家庭系廃棄物対策部長、家庭系廃棄物対策部担当部長、事業系廃棄物対策部長、</p> <p>適正処理計画部長、適正処理計画部担当部長、資源循環局担当部長、</p> <p>政策調整課長、政策調整課担当課長、調査等担当課長、3 R 推進課長、総務課長、</p> <p>業務課長、業務課プラスチック分別推進担当課長、街の美化推進課長、</p> <p>事業系廃棄物対策課長、事業系廃棄物対策課担当課長（減量推進担当）、</p> <p>事業系廃棄物対策課担当課長（許可指導担当）、施設課長、処分地管理課長、</p> <p>他事務局</p>
欠 席 者	<p>大石委員、崎田委員、田沢委員、本多委員、森(健)委員 以上 5 名</p>
開 催 形 態	公開（傍聴者なし）
議 題	・ 事業系食品ロス削減の取組について
・	・ 令和 7 年度横浜市一般廃棄物処理実施計画について
報 告 事 項	・ 記者発表資料
決 定 事 項	なし
議 事	別添 発言要旨のとおり
配 付 資 料	<p>・ 次第</p> <p>・ 委員名簿</p> <p>・ 【資料 1】 事業系食品ロス削減の取組について</p> <p>・ 【資料 2】 令和 7 年度横浜市一般廃棄物処理実施計画</p> <p>・ 【資料 3】 令和 7 年度資源循環局予算概要</p> <p>・ 【資料 4】 記者発表資料</p>

第 82 回 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会 発言要旨

議題・報告事項について、横浜市から説明し、委員から御意見をいただいた。

主な御意見は次の通り。

(1) 事業系食品ロス削減の取組について

(大迫委員)

数字を把握しながら効果的に施策を模索し進めていくとして、精力的に検討いただいていると思う。

(大森委員)

「動植物性残渣」の食品ロスが発生してしまう理由をヒアリングしたとの部分（18 ページ）について、規格外品は経済合理性を理由に該当すると思うが、衛生上の理由としたのはなぜか。

また、全体を通して、食品廃棄物等の量に着目したデータだが、食品として仕入れた内、どのくらいの割合が食品廃棄物になっているか調査してみてはどうかと感じた。

(横浜市)

規格外品については、外側のパッケージ不良などであれば経済合理性によるものと言えると思うが、食品衛生上の検査の際に不良となったものについては衛生上の理由と言えると考えている。

仕入れ量と廃棄量の関係については、発想としてなかったので調査していきたい。特に外食産業において効果的だと感じたため、そこから着手していきたい。

(大迫委員)

事業者の仕入れ量や売上げといった活動量の指標など、分母に何をもってくるかによって見え方が変わると思うので、そういった視点でも分析してみてはどうか。

(森(朋)委員)

どこが攻めどころなのかを考えられる非常によい資料。

そのうえで、食品製造業の取組（18 ページ）について、大規模な事業所の排出量が多く、再生利用もかなり進んでいるとのことだったが、再生利用した飼料や堆肥がその先で有効に活用されているのかを、横浜市として把握しているか教えていただきたい。循環のループを完成させるうえで大切なことだと思う。

また、食品小売業と外食産業で、事業者の取組が二極化しているという部分について、優良事例を事例共有するということだったが、人がいない・お金がないからできない、となる懸念がある。その際、横浜市がどうするのか考えておいた方がよいと思う。例えば、外食産業や食品小売業は、客や市民の行動が取組を左右すると思うので、「横浜市として、客にはこうアプローチするから、お店も頑張ってもらえませんか」と伝えることや、1店舗での取組が難しいのであれば、「他店舗と一緒に面的に取り組むのはどうか」と伝えるのもよいと思う。また、成功した結果、経済的にどんな効果があったのか、ど

という過程を経てその取組をはじめることができたのか、などこれから取り組む事業者の道筋が見えるような事例共有の仕方が大事だと思う。

（横浜市）

1点目について、産業廃棄物処理業に飼料として製品化したものをはけさせるよう指導が行われているため、きちんと活用はされていると考えられる。ループの視点でも現状事例はある。積極的に働きかけていきたい。

2点目について、調査を進めているなかでは、お金があっても取り組んでいないところもあると感じている。他社がどんな取組をしているのか情報がないことが要因だと考えているので、その視点で今後調査していく予定。費用対効果や採算性は大事だと思うので経済合理性に着目して展開していきたい。

（大迫会長）

横浜市内に飼料化できる施設はあるのか。

（横浜市）

市内にもメタン発酵の施設があり、ダブルループの取組も進めている。市内にそういった施設があることはメリットだと考えている。

（大迫会長）

全体がうまく流れるように進めていただけるとよいと思う。

飼料化したものが優先的に使われるよう、飼料の需要側をどう喚起していくかも大事だと思う。

（篠木委員）

食品ロスの発生理由（17 ページ）をみると仕方がない理由もあると感じるが、説明いただいた大手チェーンの受託生産品の他に何かできることはないか。また、横浜市の食品ロスの発生比率に似た比率の都市が他にあると思う。他都市と比較する視点も大事だと感じる。

さらに、食べきりの協力について、具体的に現場でどう呼び掛けているのかを見ていくのがよいと思う。飲食店で「残さないでください」といった怖いネガティブな印象を受ける場合と、「頑張って食べて」といったポジティブな印象を受ける場合がある。ポジティブな声掛けがよいと思うが、こういった声掛け・行動が効果的なのかを調査するのがよいのではないかな。

（横浜市）

1点目の食品製造業の食品ロスについては、フードドライブにつなげていくのが現実的だと考えている。フードドライブに流すものがあるのかという視点で調査をしていきたい。他都市の状況についてはまだ至っていない。他都市と意見交換できる場で市の状況を伝えつつ情報収集するなどしていきたいと思う。

2点目の食べきり協力店での呼びかけについて、ポジティブな表現がよいというのはおっしゃる通

りだと思う。その1つは Clean Plate Yokohama の取組だと思うので、メリットがあることをアピールしていきたい。これまでの調査で、食べ残しの理由も業態によると分かっている。様々な事例を確認し、実態にあった事例を集めていきたい。

(大迫会長)

過去にナッジの検討もされていたかと思うので、ぜひ活かしてほしい。

(桃井委員)

食べきり協力店のステッカーがあると小盛りを頼みやすい。今はあまりステッカーを見かけない印象がある。タブレットで注文するような店では、そこに貼ってあるとよいと思う。

食べ残しをしない意識は全体として身につけてきていると思うが、もっと取組を進めてほしい。

(横浜市)

食べきり協力店のステッカーや Clean Plate Yokohama のチラシは分かりづらいところに貼られていることがある。ナッジも意識しつつ、どこに掲示してもらうか考えたい。

(佐藤委員)

自身の店では、小盛りを頼めるようにしている。

持ち帰り対応はしておらず、注文を受ける際にも小盛りを案内するようにしている。

(横浜市)

持ち帰りについては市としても整理して発信していきたい。

(大迫会長)

詳細に分析した結果を示していただいた。出た意見を参考に効果的に取組を進めていただきたい。

機会があれば進捗を報告していただきたい。

(2) 令和7年度一般廃棄物処理実施計画について

(篠木委員)

環境教育の予算が減っているのは、お金をかけずに効率的に実施できるからだと思うが、具体的なアイデアを教えてください。

また、鶴見資源選別センターでペットボトル量が増大している理由を教えてください。ペットボトルをこれまで以上に使用しているから増大しているのか、それとも総量は変わらず分別している人が増えているから増大しているからか。横浜市としてペットボトル量をどうとらえているのか。

(横浜市)

環境教育は、ごみ分別検索システム「ミクシヨナリー」の見直しが終わったために予算が減っている。取組が変わるわけではない。

ペットボトル量は、缶からペットボトルに代わる、ペットボトルのワインなどの新たな商品が出るなど、ペットボトルの量自体が増大している。手選別を行っていることや老朽化していることを踏まえ、再整備を進めることとした。

(桃井委員)

環境教育について、今は小学校4年生に副読本を配付している状況かと思うが、5、6年、さらには中学生まで拡大し、バージョンアップして環境教育を行うことは難しいか。

(横浜市)

副読本や工場見学は小学校4年生を対象にしている。収集事務所による出前教室はそれ以上の学年にもやっているほか、環境学習プログラムをもうけて様々な年代に対応できるよう用意している。とはいえ、小学校4年生ほどの規模で行っていないので、そこは検討していきたい。

(森(朋)委員)

ポスターコンクールのやり方を工夫していただきたい。1,663 点のポスターが集まったのであれば、市民への普及啓発の観点で、もっと使うとよいと思う。

横浜市内の各所に掲示をする・普及啓発に使用するというを示して募集するほか、どこで・誰に向けたポスターなのか作成者に意識してもらえば学習効果もあがると思う。

例えば、応募要項で、どこで・誰に向けたポスターなのか明らかにしてもらおうようにどうか。

そういったやり方をすることで、他の自治体・団体がやっているポスターコンクールとはレベルの違った取組になると思う。

(横浜市)

数十作品は、市役所や焼却工場、無印良品、京急百貨店などに展示して、見ていただけるようにしているが、足りないところはあると思うので、いただいた意見を参考にしたい。

(佐藤委員)

マイボトルが使える給水機が様々な場所に設置されるとよいと思う。

桜祭りを地域で開催したときに仮設トイレがなかった経験がある。給水機とともに仮設トイレの普及も進むとよいと思う。

(横浜市)

給水機について、令和6年度は事業者と連携して市役所1階や収集事務所のイベントに試験的に設置した。多くの方に利用いただいたため、これからの展開について考えているところ。

また、イベント時のトイレが不足しているというご指摘について、資源循環局にも貸出用トイレはあ

るが、一般的にはイベント事業者による貸出しで対応いただいている。ただし、いずれにしてもトイレに困ることがないように、いただいた話をイベント主催者などに共有していきたい。

(林委員)

トイレトレーラーを能登に派遣したとのことだが、横浜市では何台保有しているのか。

先日、上瀬谷で GREEN EXPO のフェスティバルに参加した。そこでは事業者がトイレを多く設置していた。事業者から貸出できるものもあると思う。

(横浜市)

トイレトレーラーは現在資源循環局で1台保有している。補正予算で1台追加で導入予定。そのほか、総務局予算で5台導入予定であり、市としては計7台になる予定。

(桃井委員)

トイレパックの備蓄が必要との記載があるが、防災訓練の時、トイレの管理が大変だった経験があるため、トイレパックの備蓄は大事だと思っている。周囲の人に聞くと、食料は備蓄していてもトイレパックを備蓄している人はいなかった。トイレパックの備蓄に関する啓発をもっとしてほしい。

(横浜市)

おっしゃるとおり食料と同様にトイレも大切。来年度からは、食べ物・飲み物・トイレの3点セットで啓発していく取組を各局・各事業者と連携して行うよう調整を進めている。トイレパックも備蓄してもらえるようしっかり働きかけていきたい。

(林委員)

缶・びん・ペットボトルの手選別は、手間がかかるし、作業環境も悪いと思っている。洗って捨てることや分別を守ることが大事だと啓発してほしい。

(横浜市)

新しく、缶・びん・ペットボトルの袋のリサイクルを始めるため、その話をする中で、缶・びん・ペットボトルの出し方についても啓発していきたいと思っている。

(大迫会長)

事業系プラスチックごみ削減の取組で廃棄物処理法の規制を一部免除する件（予算概要の6ページ）は実際に案件があるのか。周知しないと活用されないと思うので、そのあたりを伺いたい。

(横浜市)

国の通知を、制度化・見える化したもので、事業者にアピールするもの。現在は市内にリサイクル技術を持つ事業者が少ないが、今回の取組がうまく働けば、横浜に事業者に来てもらうきっかけになると思っている。また、大学などの研究所でも技術開発が進むと思っている。

(大迫会長)

サーキュラエコノミーの活動をどう把握するかが大切。事業者の活動をアピールする材料や動脈産業と静脈産業のマッチングにつながるとよい。行政として後押ししてほしい。

(大迫会長)

横浜市の説明のとおり、実施計画は審議会で意見をいただくことになっている。今回多くの意見をいただいたので、本件は以上とさせていただきます。

(横浜市)

欠席者からの意見を紹介したい。

崎田委員から、プラスチック資源の残渣率について意見があった。集めたプラスチック資源を中間処理施設で処理をし、引き渡しているが、その中間処理施設での残渣率を出して啓発で活用してはどうかとの提案。

その意見を受け、搬入量と搬出量から試算し、残渣率 5.35%と分かった。しっかりと啓発していきたい。

(3) 記者発表資料について

(林委員)

小学生・中学生へのポスターコンクールの作品を各区役所へ展示してはどうか。

(横浜市)

一部の区では展示をしているが、より多くの方に見ていただけるようにしていきたい。

(森(朋)委員)

食べきり協力店や Clean Plate Yokohama の店舗リストは横浜市役所内で共有するとよいと思う。

(横浜市)

発信していきたい。